

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事	
上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	
	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 選定した記事内容	
1	-	0.00 3.00	0.00 3.00	0.00 3.00	0.00 3.00	0.00~3.00m: 盛土 径0.5~4.0mmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を2~30%含む細粒砂からなる。全体にルーズ。
2	0.00 0.30	0.00 0.40	0.00 0.40	0.00 0.40	0.00 0.40	0.00~0.30m: 細粒砂主体の盛土 径1cm以下の灰白色シルトの礫を2~5%程度含む
3	0.30 0.70	0.40 0.70	0.40 0.70	0.40 0.70	0.40 0.70	0.30~0.70m: 径1.0~3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土 径1.0~3.0cmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を10%程度含む中粒砂主体の盛土
4	0.70 0.90	0.70 0.90	0.70 0.90	0.70 0.90	0.70 0.90	0.70~0.90m: 径0.5~1.0cmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を2~5%程度含む中粒砂主体の盛土
5	0.90 1.80	0.90 1.80	0.90 1.80	0.90 1.80	0.90 1.80	0.90~1.80m: 径1.0~4.0cmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を30%程度含む粗粒砂主体の盛土
6	1.80 2.40	1.80 2.40	1.80 2.40	1.80 2.40	1.80 2.40	1.80~2.40m: 径1.0~3.0cmの灰白色シルト、黒色砂岩の礫を2~5%程度含む中粒砂主体の盛土
7	2.40 3.00	2.40 3.00	2.40 3.00	2.40 3.00	2.40 3.00	2.40~3.00m: 径1.0~4.0cmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を30%程度含む粗粒砂主体の盛土
8	3.00 4.00	3.00 4.11	3.00 4.11	3.00 4.11	3.00 4.11	3.00~4.11m: スライム 細粒砂からなる。礫はほとんど含まない。
9	4.00 4.10	4.00 4.10	4.00 4.10	4.00 4.10	4.00 4.10	4.00~4.10m: スライムにより判別不可
10	4.10 4.30	4.11 4.30	4.11 4.30	4.11 4.30	4.11 4.30	4.10~4.30m: 礫率60%の砂礫でくもり礫や半くさり礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫は花崗岩類。礫径は2~30mmの亜角礫主体。4.15m: 礫径0.5~1.0mmの粗粒砂。幅3~5mmの暗褐色粘土。コア供回りによる砂
11	4.10 4.30	4.11 4.30	4.11 4.30	4.11 4.30	4.11 4.30	4.10~4.30m: (地質名欄) 砂礫
12	4.30 4.65	4.30 4.65	4.30 4.65	4.30 4.65	4.30 4.65	4.30~4.65m: 礫率20~30%で半くさり礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。4.40~4.50m付近に粘土状の細粒部が認められる。礫径は2~30mmの亜角礫主体。4.40~4.50m付近に粘土状の細粒部が認められる。スライム。細化現象が認められる。礫径は2~30mmの亜角礫主体
13	4.65 6.80	4.65 6.80	4.65 6.80	4.65 6.80	4.65 6.80	4.65~6.80m: 礫率60~80%。砂は径0.5~2mmの極細粒砂~粗粒砂。4.65~5.85m付近は径5cm以上の巨礫が多く含まれる。5.40~5.60m付近に一部礫に明赤灰(2.5YR7/1)や明褐色(7.5YR7/1)、極暗赤褐(2.5YR2/3)が認められる。5.15~6.30m付近は径8mm以上の巨礫が著しく減少する。6.30~6.60m付近は径1cm以上の半くさり礫の巨礫が多く含まれる。礫径は2~30mmの亜角礫から亜円礫主体。一部最大径200mmの巨礫あり
14	6.80 6.80	6.80 6.80	6.80 6.80	6.80 6.80	6.80 6.80	6.80~6.80m: スライムのため判別不可 シルト混じり細粒砂
15	6.80 7.15	6.80 7.15	6.80 7.15	6.80 7.15	6.80 7.15	6.80~7.15m: 礫率5~10%で半くさり礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極細粒~粗粒砂。礫径は2~30mmの亜角礫主体
16	7.15 7.30	7.15 7.30	7.15 7.30	7.15 7.30	7.15 7.30	7.15~7.30m: 有機物を多く含む有機質土
17	7.30 7.55	7.30 7.55	7.30 7.55	7.30 7.55	7.30 7.55	7.30~7.55m: 礫率20~30%で半くさり礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極細粒~粗粒砂。礫径は2~30mmの亜角礫主体
18	7.55 8.00	7.55 8.60	7.55 8.60	7.55 8.60	7.55 8.60	7.55~8.60m: スライムのため判別不可 シルト混じり粗粒砂

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容		
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容		
19	8.00	8.60	スライムのため判別不可	8.00	8.60	スライムのため判別不可	-	-	-	-
20	8.60	9.50	(地質名欄) 砂礫	8.60	9.50	(地質名欄) 礫混じり砂	8.60	9.50	(地質名欄) 礫混じり砂	-
21	8.60	9.50	・礫率30～40%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂 ・8.75～8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25～9.35m付近に黒色土(土層)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2～30mmの垂角礫～垂円礫主体	8.60	9.50	・礫率10～15%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂 ・8.75～8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25～9.35m付近に黒色土(土層)に挟まれた砂層が認められる黒色土層砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(真幅は黒色土2cm砂4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる 礫種GP 礫径2～30mmの垂角礫～垂円礫主体	8.60	9.50	8.60～9.50m: 礫混じり砂 礫率10～15%でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む。 砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂。 8.75～8.85m付近はスライムを含む。 9.25～9.35m付近に黒色土(土層)に挟まれた砂層が認められる。 黒色土層、砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(真幅は黒色土2cm砂4cm下2cm)。 黒色土層(上下)中に植物片が認められる。 礫種は花崗斑岩。 礫径2～30mmの垂角礫～垂円礫。	-
22	9.50	10.00	スライムのため判別不可	9.50	10.00	スライムのため判別不可 シルト混じり細～中粒砂	9.50	10.00	9.50～10.00m: スライム シルト混じり細～中粒砂からなる。	-
23	10.00	10.65	・礫率70～80%でクサリ礫を一部含む ・砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 ・径0.5～1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2～100mmの垂角礫～垂円礫主体、一部最大径200mmの巨礫あり	10.00	10.65	・礫率50%以上でクサリ礫を一部含む ・砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 ・径0.5～1cmの石英が多く含まれる 礫種GP一部AP含む 礫径2～200mmの垂角礫～垂円礫主体、一部最大径200mmの巨礫あり	10.00	10.65	10.00～10.65m: 砂礫 礫率50%以上でクサリ礫を一部含む。 砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂。 径0.5～1cmの石英が多く含まれる。 礫種は花崗斑岩で一部アライトを含む。 礫径2～200mmの垂角礫～垂円礫。	-
24	10.65	11.05	スライムのため判別不可	10.65	11.05	スライムのため判別不可 シルト混じり細粒砂	10.65	11.05	10.65～11.05m: スライム シルト混じり細粒砂からなる。	-
25	11.05	11.85	・礫率50～60%でクサリ礫～半クサリ礫を含む ・砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 ・径0.5～1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2～100mmの垂角礫～垂円礫主体	11.05	11.85	・礫率50～60%でクサリ礫～半クサリ礫を含む ・砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂 ・径0.5～1cmの石英が多く含まれる 礫種GP 礫径2～100mmの垂角礫～垂円礫主体	11.05	11.85	11.05～11.85m: 砂礫 礫率50～60%でクサリ礫～半クサリ礫を含む。 砂は径0.5～2.0mmの極粗粒～粗粒砂。 径0.5～1cmの石英が多く含まれる。 礫種は花崗斑岩。 礫径2～100mmの垂角礫～垂円礫。	-
26	11.85	12.00	スライムのため判別不可	11.85	12.10	スライムのため判別不可 シルト混じり中粒砂	11.85	12.10	11.85～12.10m: スライム シルト混じり中粒砂からなる。	-
27	12.00	12.10	スライムのため判別不可	12.00	12.10	スライムのため判別不可	-	-	-	-
28	12.10	12.49	(地質名欄) 砂	12.10	12.49	(地質名欄) 粗砂	12.10	12.49	(地質名欄) 粗砂	-
29	12.10	12.50	・礫率5%未満でクサリ礫を含む 砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂 礫種GP 礫径2～30mmの垂円礫主体(層岩)	12.10	12.49	・礫率5%未満でクサリ礫を含む 砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂 礫種GP 礫径2～30mmの垂円礫主体(層岩)	12.10	12.49	12.10～12.49m: 粗粒砂 礫率5%未満でクサリ礫を含む。 砂は径0.5～1.0mmの粗粒砂。 礫種は花崗斑岩。 礫径2～30mmの垂円礫。	-
30	-	-	-	12.49	94.07	花崗斑岩	12.49	94.07	12.49～94.07m: 花崗斑岩	-
31	12.49	14.84	D 強く風化した土砂状を呈するが、岩組織は残存する割れ目は一部消滅しているが、多くは残存している。また、短々灰白色の粘土が脈状に分布する 割れ目は10～30°の低角度系が主体	12.49	14.84	D 強く風化した土砂状を呈するが、岩組織は残存する割れ目は一部消滅しているが、多くは残存している。また、短々灰白色の粘土が脈状に分布する 割れ目は10～30°の低角度系が主体	12.49	14.84	12.49～14.84m: D 強く風化した土砂状を呈するが、岩組織は残存する。割れ目は一部消滅しているが、多くは残存している。所々、幅1mm程度の灰白色の粘土が脈状に分布する。割れ目は10～30°の低角度系が主体。	-
32	14.84	24.44	CL 全体に10～30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目ぞいに風化で砂状化が進んでいる。 18.30m以降では色々マンガン鉱染付。 15.22～15.44mは硬さCの硬質岩片が残留している	-	-	-	14.84	24.44	14.84～24.44m: CL 全体に10～30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目ぞいに風化で砂状化が進んでいる。 18.30m以降では色々マンガン鉱染付。 15.22～15.44m: 硬さCの硬質岩片が残留している。	-
33	-	-	-	15.22	15.44	(コアの硬さ欄) Cランク (風化欄) Aランク	15.22	15.44	(コアの硬さ欄) Cランク (風化欄) Aランク	-
34	16.00	17.62	割れ目周辺に硬さEが部分的に分布する	-	-	-	16.00	17.62	16.00～17.62m: 割れ目周辺に硬さEが部分的に分布する。	-
35	16.75	16.84	φ30～40 m/mの硬さCの硬質岩片が層状に分布	-	-	-	16.75	16.84	16.75～16.84m: 径30～40mmの硬さCの硬質岩片が層状に分布。	-
36	17.44	17.44	割れ目ぞいに幅0～40m/mが砂状化する	17.44	17.44	傾斜15°の割れ目ぞいに幅1～4m/mが砂状化する	17.44	17.44	17.44m: 傾斜15°の割れ目ぞいに幅1～4mmが砂状化する。	-
37	18.10	22.19	上下に比べ割れ目少なくなる(IV)	-	-	-	18.10	22.19	18.10～22.19m: 上下に比べ割れ目少なくなる(コアの形状IV)。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字まで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
38	18.31	18.31	幅10m/mマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する	18.31	18.31	傾斜10° 幅10m/mマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する	18.31	18.31	18.31m:傾斜10°で幅10mmマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する。
39	19.60	19.60	割れ目ぞいに幅10m/m砂状化する	19.60	19.60	傾斜12°の割れ目ぞいに幅10m/m砂状化する	19.60	19.60	19.60m:傾斜12°の割れ目ぞいに幅10mm砂状化する。
40	-	-	-	20.37	20.42	傾斜10°程度の割れ目に沿って暗褐色の岩片混じり粘土を幅2~10mmで挟む。一部は不規則な割れ目中に流入する。	20.37	20.42	20.37~20.42m:傾斜10°の割れ目ぞいに幅2~10mmで暗褐色の岩片混じり粘土を挟む。一部は不規則な割れ目中に流入する。
41	21.16	22.01	割れ目ぞいに幅0~30m/mで砂状化する部分がある	-	-	-	21.16	22.01	21.16~22.01m:割れ目ぞいに幅0~30mmで砂状化する部分がある。
42	22.01	22.19	硬さ「C」の硬質部が残留	-	-	-	22.01	22.19	22.01~22.19m:硬さ「C」の硬質部が残留。
43	-	-	-	22.01	22.19	(コアの硬さ欄)クラック	22.01	22.19	(コアの硬さ欄)クラック
44	23.05	23.80	20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10m/m程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している	23.05	23.80	20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10m/m程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。 割れ目面にマンガン汚染がみられる	23.05	23.80	23.05~23.80m:20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10mm程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。割れ目面にマンガン汚染がみられる。
45	-	-	-	23.16	23.16	傾斜12°の割れ目に沿って幅15mm程度で緑色化している。	23.16	23.16	23.16m:傾斜12°の割れ目ぞいに幅15mmで緑色化する。
46	24.16	24.16	以深では硬さ「E」も含む全体に脆い岩片多い	-	-	-	24.16	24.16	24.16m以深では硬さ「E」も含む。全体に脆い岩片多い。
47	24.44	24.71	D 風化で土砂状を呈する 岩組織や割れ目はほぼ消滅している	-	-	-	24.44	24.71	24.44~24.71m:D 風化で土砂状を呈する。 岩組織や割れ目はほぼ消滅している。
48	24.44	24.71	(岩級区分欄)D	24.44	24.71	(岩級区分欄)CL	24.44	24.71	(岩級区分欄)CLに含める
49	24.71	26.62	CL 10~30°割れ目が主体で割れ目ぞいの一部は砂状化する	-	-	-	24.71	26.62	24.71~26.62m:CL 10~30°割れ目が主体で割れ目ぞいの一部は砂状化する。
50	-	-	-	25.03	25.03	傾斜13°の割れ目ぞいに幅7mmの石英脈。マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化を呈する。	25.03	25.03	25.03m:傾斜13°の割れ目ぞいに幅7mmの石英脈。マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。
51	26.00	26.00	26m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む	26.00	26.00	26.00m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む	26.00	26.00	26.00m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む。
52	26.62	27.60	D 27.00m以浅では割れ目や岩組織は残留するが27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂礫状で採取されている。(27.00~27.10mは掘削時に流失)	-	-	-	26.62	27.60	26.62~27.60m:D 27.00m以浅では割れ目や岩組織は残留するが、27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂礫状で採取されている。 27.00~27.10m:コア欠如。
53	27.60	28.00	CL 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目を含み細片化し脆いものも含んでいる	-	-	-	27.60	28.00	27.60~28.00m:CL 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目を含み細片化し脆いものも含んでいる。
54	28.00	28.19	ノンコア(D)	28.00	28.19	コア欠如	28.00	28.19	28.00~28.19m:コア欠如
55	28.00	28.19	(岩級区分欄)D	28.00	28.19	(岩級区分欄)空欄	28.00	28.19	(岩級区分欄)空欄
56	28.19	28.61	CL 割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む	-	-	-	28.19	28.61	28.19~28.61m:CL 割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。
57	28.61	28.68	ノンコア(D)	28.61	28.68	コア欠如	28.61	28.68	28.61~28.68m:コア欠如
58	28.61	28.68	(岩級区分欄)D	28.61	28.68	(岩級区分欄)空欄	28.61	28.68	(岩級区分欄)空欄
59	28.68	28.84	CL 割れ目ぞいで砂状化する	-	-	-	28.68	28.84	28.68~28.84m:CL 割れ目ぞいで砂状化する。
60	28.84	30.74	D 締った砂状化を呈する φ10~30m/m程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する 30m以深では岩片量が多くなる	28.84	30.74	D 締った砂状化を呈する φ10~30m/m程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する 30m以深では岩片量が多くなる	28.84	30.74	28.84~30.74m:D 締った砂状化を呈する。径10~30mm程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し砂礫状を呈する。
61	-	-	-	29.00	29.09	コア欠如	29.00	29.09	29.00~29.09m:コア欠如
62	30.17	30.50	マンガン鉱染伴う。	-	-	-	30.17	30.50	30.17~30.50m:マンガン鉱染伴う。
63	30.30	30.53	石英多く晶出(一部は実質による2次石英と推定される)	-	-	-	30.30	30.53	30.30~30.53m:石英多く晶出(一部は実質による2次石英と推定される)。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されている? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されている? <input checked="" type="checkbox"/>				
64	-	-	30.38	30.38	傾斜6°、幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む	30.38	30.38	30.38m:傾斜6°で幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む。	-
65	30.74	32.48	30.74	32.48	CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む 上端側の30.74~31.30m間は風化による黄褐色化が進むが軟化は伴わない	30.74	32.48	30.74~32.48m:CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む 上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない。	-
66	31.05	31.23	31.05	31.23	熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱床と風化も伴ない全体として黄褐色の濃い色調を呈する	31.05	31.23	31.05~31.23m:熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱床と酸化汚染も伴ない全体として黄褐色の濃い色調を呈する。	-
67	-	-	31.47	31.47	傾斜35°、幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む	31.47	31.47	31.47m:傾斜35°で幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む。	-
68	31.70	32.20	-	-	-	31.70	32.20	31.70~32.20m:割れ目沿いの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片はφ10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全厚にやや上下に比べ脆くなる	-
69	32.48	32.70	-	-	-	32.48	32.70	32.48~32.70m:D 原岩組織と割れ目はほぼ残留している。	-
70	32.48	32.70	32.48	32.70	(岩級区分欄)CL	32.48	32.70	(岩級区分欄)CLに含める	-
71	32.70	34.54	-	-	-	32.70	34.54	32.70~34.54m:CL 割れ目沿いに厚さ1~2m程度で薄く砂状化部を挟む。一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多し。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差	-
72	33.17	33.17	33.17	33.17	15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。切っ迫している(変位量10mm、右ズレ)-15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。	33.17	33.17	33.17m:15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。	-
73	33.40	33.40	-	-	-	33.40	33.40	33.40m:15°割れ目沿いに厚さ20mm砂状化。	-
74	33.76	33.76	-	-	-	33.76	33.76	33.76m:5°割れ目沿いに厚さ10mm砂状化。	-
75	34.00	34.00	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低いゆる着割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低いゆる着割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている	-
76	34.03	34.03	-	-	-	34.03	34.03	34.03m:40°幅2~3mm石英脈、密着して連続。	-
77	34.54	34.59	34.54	34.59	(岩級区分欄)CL	34.54	34.59	(岩級区分欄)CLに含める	-
78	34.54	34.59	34.54	34.59	破砕部、最新活動面34.59m(11°)	34.54	34.59	●34.54~34.59m:破砕部 34.54~34.59m:粘土混じり岩片状部(Hj) 二端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。径5mmの花崗岩片主体で岩片間は粘土状~砂状を呈する。幅40~50mm、 34.59m:隣接し粘土状部(Hc-2) 上下端とも11°で直線的に連続。径1mmの石英粒を10%程度含む。幅3~4mm。	-
79	34.54	34.59	34.54	34.59	Hj 上端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。径5mmの花崗岩片主体で岩片間は粘土状~砂状で「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)厚さ40~50mm	34.54	34.59	Hj 上端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。径5mmの花崗岩片主体で岩片間は粘土状~砂状で「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)厚さ40~50mm 軟質、含まれる細粒部は局所的で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	-
80	34.59	34.59	34.59	34.59	Hc-2 上下端とも11°で直線的に連続。φ1mm/m石英粒を10%程度含む。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ3~4mm	34.59	34.59	Hc-2 上下端とも11°で直線的に連続。φ1mm/m石英粒を10%程度含む。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ3~4mm	-
81	34.59	35.37	34.59	35.37	CL 細片化し易いゆる着割れ目が多い	34.59	35.37	34.59~35.37m:CL 細片化し易いゆる着割れ目が多い。10~30°と50~70°の割れ目がみられる。	-
82	35.37	37.15	-	-	-	35.37	37.15	35.37~37.15m:D 軟化著しく硬さ「E」主体であるが原岩組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中石的に含む。	-
83	33.00	36.00	33.00	36.00	コアなし(CTスキヤン?)	-	-	-	-
84	36.09	36.26	-	-	-	36.09	36.26	36.09~36.26m、36.53~36.62m:硬さ「C」の硬質部が残留する。	-
85	-	-	36.09	36.26	(コアの硬さ欄)オレンジ (風化欄)アランク	36.09	36.26	(コアの硬さ欄)オレンジ (風化欄)アランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
86	-	-	36.53	36.62	(コアの硬さ)Cランク (風化層)γランク	36.53	36.62	(コアの硬さ)Cランク (風化層)γランク	-
87	36.70	36.70	-	-	-	36.70	36.70	36.70m以深で径10~30mmの硬さ「D」ないし「C」の岩片が残状に残留する。	-
88	37.15	42.00	-	-	-	37.15	42.00	37.15~42.00m:CL 0~30° 割れ目主体で、割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。	-
89	37.80	37.80	37.80	37.80	5° 割れ目ぞい幅10~20m/m砂状化、微細な白雲母が露出している。	37.80	37.80	37.80m:5° 割れ目ぞい幅10~20mm砂状化、微細な白雲母が露出している。	-
90	38.56	38.74	-	-	-	38.56	38.74	38.56~38.74m:径20~30mmの硬さ「C」岩片が残留する。	-
91	39.26	39.70	-	-	-	39.26	39.70	39.26~39.70m:硬さ「C」の径30~50mm岩片が多く残留する。	-
92	39.90	39.90	-	-	-	39.90	39.90	39.90m:幅10~20mm、0° で淡緑色部が分布(緑泥石濃集部と推定される)。	-
93	40.32	40.77	40.32	40.77	割れ目ぞいの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がそのなかに残留し、全体として砂礫状を呈し、上下に比べやや脆くなる。 低角度の割れ目他、60~80° の割れ目も分布する。	40.32	40.77	40.32~40.77m: 割れ目ぞいの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がそのなかに残留し、全体として砂礫状を呈し、上下に比べやや脆くなる。低角度の割れ目他、40~80° の割れ目も分布する。	-
94	41.50	41.50	41.50	41.50	2° 割れ目ぞい幅30m/m淡緑色化(緑泥石化)し、φ0.5~1m/mの微細な黄鉄鉱が露出している。	41.50	41.50	41.50m:2° 割れ目ぞい幅30mm淡緑色化(緑泥石化)し、径0.5~1mmの微細な白雲母が露出している。	-
95	41.95	42.00	-	-	-	41.95	42.00	41.95~42.00m: コアチューブ引上時に壊され礫状コア化したもの。硬さは「D」。	-
96	42.00	42.41	-	-	-	42.00	42.41	42.00~42.41m:D 一部の割れ目と岩組織は残留している。	-
97	42.24	42.28	42.24	42.28	上端15°、下端18° 割れ目に囲まれ、厚さ30m/m軟質・淡黄色粘土化(変質度4)。上端側は緑色化している。 幅1m/m白色粘土脈も処々に点在する。マンガン鉱床がみられる。	42.24	42.28	42.24~42.28m:上端15°、下端18° 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4)。上端側は緑色化している。 幅1mm白色粘土脈も所々に点在する。マンガン鉱床がみられる。	-
98	42.41	42.49	42.41	42.49	破砕帯(主せん断面42.43m) 最新活動面は42.41mか42.43mの可能性はある	42.41	42.49	●42.41~42.49m:破砕部 42.41~42.43m:隣接しり粘土状部(Hc-2) 42.43~42.49m:隣接しり粘土状部(Hc-2) 上下端各々63°、54° で波打って連続、φ1~2m/m石英粒はわずか、Gp岩片計10%程度含む軟質な緑泥じり粘土からなる砂状部。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)、厚さ10~15m/m。 42.43~42.45m:隣接しり粘土状部(Hb) 上端54°、下端35° でいずれも波打って連続、軟質で、径1~2mmの石英粒、径5~10mmの粘土化花崗岩岩片を計20~30%含む、灰白色を呈する。幅5~10mm。 42.45~42.49m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端35°、下端18° でいずれも波打って連続、下端の一部はやや不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。にぶい黄褐色を呈する。幅40mm。	-
99	42.41	41.43	42.41	42.43	Hc-2 上下端各々63°、54° で波打って連続、φ1~2m/m石英粒はわずか、Gp岩片計10%程度含む軟質な緑泥じり粘土からなる砂状部。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)、厚さ10~15m/m	42.41	42.43	Hc-2 上下端各々63°、54° で波打って連続、φ1~2m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化Gp岩片計20~30%含む軟質な緑泥じり粘土を呈する。色調はにぶい黄褐色(2.5YR/2)、厚さ5~10m/m	-
100	41.43	42.45	42.43	42.45	Hb 上端54°、下端35° でいずれも波打って連続、φ1~2m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化Gp岩片計20~30%含む軟質な緑泥じり粘土を呈する。色調はにぶい黄褐色(2.5YR/2)、厚さ5~10m/m 灰白色粘土は不連続である。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	42.41	42.49	Hb 上端54°、下端35° でいずれも波打って連続、φ1~2m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化Gp岩片計20~30%含む軟質な緑泥じり粘土を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)、厚さ40m/m やや軟質。含まれる組織は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	-
101	42.45	42.49	42.45	42.49	Hj 上端35°、下端18° でいずれも波打って連続、下端の一部はやや不明瞭。φ5~20m/mの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)、厚さ40m/m やや軟質。含まれる組織は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	42.45	42.49	Hj 上端35°、下端18° でいずれも波打って連続、下端の一部はやや不明瞭。φ5~20m/mの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)、厚さ40m/m やや軟質。含まれる組織は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	-
102	42.49	44.24	42.49	44.24	D 著しく軟化するが岩組織と割れ目一部は残留している。10~30° 及び60~80° 程度の割れ目が見られる。	42.49	44.24	42.49~44.24m:D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目一部は残留している。傾斜10~30° 及び60~80° 程度の割れ目が見られる。	-
103	43.45	43.48	-	-	-	43.45	43.48	43.45~43.48m:厚さ25mm*23° の石英脈が硬質で分布。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所も本書書で表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
104	44.24	44.53	破砕帯(主せん断面44.31m)	44.24	44.53	破砕帯(最新活動面44.31m) 直線的な粘土を伴う				
105	44.24	44.31	Hb 上端、幅1m/赤褐色軟質粘土で5~13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。φ2~3mm/石英粒、φ1~10m/長さ25m/m/Gp岩片を30%程度含む半固結状の硬質粘土。色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。	44.24	44.31	Hb 上端、幅1m/赤褐色軟質粘土で5~13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。φ1~3mm/石英粒、φ1~10m/m(長さ25m/m/Gp岩片を30%程度含む粘土質粘土を呈する。やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。半固結状の硬質粘土。色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。			●44.24~44.53m:破砕部 44.24~44.31m:粘土質硬状部(Hb) 上端、幅1m/赤褐色軟質粘土で5~13°で湾曲して、下端35°で直線的に連続。φ2~3mm/石英粒、径5~10mm/長さ25m/m/花崗斑岩岩片を30%程度含む、灰褐色を呈する。幅45~45mm。 44.31m:粘土状部(Hc-1) 上端とも35°で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をこわす(φ以下)含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 44.31~44.53m:粘土混じり岩片状部(H) 上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。径5mm前後の粘土化した花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土層からなる。灰褐色~淡黄色を呈する。幅140~200mm。	
106	44.31	44.31	Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続。φ1m/mの石英粒をこわす(φ以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ1~2m/m。	44.31	44.31	Hc-1 上下端とも35°で直線的に連続。φ1m/mの石英粒をこわす(φ以下)含む軟質粘土(ガウジ)。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ1~2m/m	44.24	44.53		
107	44.31	44.53	Hj 上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土層からなり、粘土混じり岩片状となる。色調は灰褐(7.5Y6/2)~灰黄(2.5Y6/3)、厚さ140~200m/m	44.31	44.53	Hj 上端35°で直線的に、下端70°で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土層からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5Y6/2)~灰黄(2.5Y6/3)、厚さ140~200m/m やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。				
108	44.53	44.83	破砕帯(主せん断面44.66m)	44.53	44.83	破砕帯(最新活動面44.66m) 最も直線的な粘土状部				
109	44.53	44.66	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。φ5~10m/粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調はこぶい橙(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。	44.53	44.66	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり、粘土混じり岩片状を呈する。色調はこぶい橙(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。 やや軟質で含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。			●44.53~44.83m:破砕部 44.53~44.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなる。こぶい橙色~灰白色を呈する。幅55mm。 44.66~44.83m:粘土状部(Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端65°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(φ以下)含む。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。灰黄褐色を呈する。幅4~5mm。 44.83~44.70m:硬質粘土状部(Hb) 上端65°で一部波打って、下端60~70°で湾曲して連続。やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、径2mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む。明赤灰色~灰白色を呈する。幅10~20mm。 44.70~44.83m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1mm以下の灰黄褐色軟質粘土層。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土層からなる。岩片間の基質部に土黄褐色のマンガン鉱染部が点在する。灰褐色~淡黄色を呈する。幅20~50mm。	
110	44.66	44.68	Hc-1 65°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1m/m石英粒ごく少量(φ以下)含む軟質粘土(ガウジ)。上下端側(主せん断面と同方向)幅1~2m/m、長さ5~10m/mの脈状のマンガン鉱染部を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ4~5m/m	44.66	44.68	Hc-1 65°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1m/m石英粒ごく少量(φ以下)含む軟質粘土(ガウジ)からなる。上下端側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2m/m、長さ5~10m/mの脈状のマンガン鉱染部を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ4~5m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	44.53	44.83		
111	44.68	44.70	Hb 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。φ2m/m石英粒φ3~5m/m粘土化岩片を計20~30%含む半固結状の硬質粘土を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20m/m	44.68	44.70	Hb 上端65°で一部波打って、下端50~70°で湾曲して連続。φ2m/m石英粒φ3~5m/m粘土化岩片を計20~30%含む半固結状の硬質粘土を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20m/m やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が強い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない				
112	44.70	44.83	Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄褐色(10YR4/2)軟質粘土層。φ5~10m/粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土層からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5Y6/2)~淡黄色(2.5Y6/3)、厚さ20~50m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。	44.70	44.83	Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも湾曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄褐色(10YR4/2)軟質粘土層。φ5~10m/粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土層からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5Y6/2)~淡黄色(2.5Y6/3)、厚さ20~50m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。 やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる				
113	44.83	45.36	D	44.83	45.36	D 強く直質し、網目状の灰白色粘土が分布。原岩組織は残存する。	44.83	45.36	44.83~45.36m:D 強く直質し、網目状の灰白色粘土が分布する。原岩組織は残存する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
114	45.36	45.39 破砕帯(主せん断面45.39m)	45.36	45.39	破砕帯(主せん断面45.39m) 最新活動面は45.39mの粘土の上端が下端の可能性がある	45.36	45.39	●45.36~45.39m:破砕部 45.36~45.39m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい褐色を呈する。幅5~10mm。 45.39m:攪混じり粘土状部(Hc-2) 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分岐・収れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒5~10%含む。灰褐色を呈する。幅2m。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
115	45.36	45.39 Hj 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に粘土混じり岩片状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。	45.36	45.39	Hj 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に粘土混じり岩片状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	45.36	45.39		
116	45.39	45.39 Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分岐・収れんする。φ1~2m/m石英粒5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	45.39	45.39	Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分岐・収れんする。φ1~2m/m石英粒5~10%含むやや軟質な攪混じり粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	45.39	45.39		
117	45.39	46.12 D 幅1m前後の軟質な白色粘土層が多い。	45.39	46.12	D 幅1m前後の軟質な白色粘土層が多い。	45.39	46.12	45.39~46.12m:D 幅1m前後の軟質な白色粘土層が多い。強度変質しているが、原岩組織は残留する。	
118	46.12	46.17 破砕帯(主せん断面46.17m)	46.12	46.17	破砕帯(主せん断面46.17m) 最新活動面は肉眼で認定できない	46.12	46.17	●46.12~46.17m:破砕部 46.2~46.16m:粘土質岩片状部(Hj) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや皮打って連続。径5~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に塊状に分布。下部のHc-2の粘土と平行した細かい割れ目や厚さ1mmの白色粘土細脈が分布。淡黄色を呈する。幅35mm。 46.6~46.17m:攪混じり粘土状部(Hc-2) 上端35°でやや皮打って、下端35~70°で大きく湾曲して連続。やや硬質で、径1~2mm石英粒、径3mm粘土化岩片を20~30%含む。淡黄色~黄褐色を呈する。幅2~10mm。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
119	46.12	46.17 Hj 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35~70°で大きく湾曲して連続。径5~10mm粘土化岩片が粘土化基質中に塊状に分布。全体的に粘土質岩片状を呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ35m/m	46.12	46.16	Hj 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや皮打って連続。径5~10mm粘土化岩片が粘土化基質中に塊状に分布。全体的に粘土質岩片状を呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ35m/m。やや軟質で含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	46.12	46.17		
120	46.17	46.17 Hc-2 上下端とも35~70°で大きく湾曲して連続。φ1~2m/m石英粒、φ3m/m粘土化岩片を20~30%含む半固結状の粘土(ガウジ)。色調は黒褐(10YR3/1)、厚さ2~10m/m	46.16	46.17	Hc-2 上端31°でやや皮打って、下端35~70°で大きく湾曲して連続。φ1~2m/m石英粒、φ3m/m粘土化岩片を20~30%含む半固結状のやや硬質な粘土からなる(ガウジ)。色調は淡黄(2.5YR8/3)~黒褐(10YR3/1)、厚さ2~10m/m	46.16	46.17		
121	46.17	47.40 D 変質し、網目状の灰白色粘土が分布	46.17	47.40	D 変質し、網目状の灰白色粘土が分布	46.17	47.40	46.17~47.40m:D 変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。	
122	46.73	46.73 55°せん断割れ目:幅1mm赤褐色粘土伴う。	46.73	46.73	55°せん断割れ目:幅1mm赤褐色粘土伴う。赤褐色粘土は途中でせん断。赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明確に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以降に様々な方向で認められる。	46.73	46.73	46.73m:55°割れ目、幅1mmの赤褐色粘土伴う。赤褐色粘土は途中でせん断。赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明確に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以降に様々な方向で認められる。	
123	47.40	47.51 破砕帯(主せん断面47.40m)	47.40	47.51	破砕帯(主せん断面47.40m) 最新活動面は47.40mの粘土の上端が下端の可能性がある	47.40	47.51	●47.40~47.51m:破砕部 47.40m:粘土状部(Hc-1) 上下端とも68°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 47.40~47.51m:雑質砂状部(Hh) 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒を20~30%含む。黄褐色を呈する。幅70mm。	・破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
124	47.40	47.40 Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。径1m/m石英粒を5%程度含むやや軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)、厚さ1~2m/m	47.40	47.40	Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。径1m/m石英粒を5%程度含むやや軟弱な粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)、厚さ1~2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	47.40	47.51		
125	47.40	47.51 Hh 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。φ2~3m/m石英粒を20~30%含む軟質な「雑質砂状」を呈する。岩片は認められない。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m	47.40	47.51	Hh 上端59°、下端55°でいずれも直線的に連続。φ2~3m/m石英粒を20~30%含む軟質な「雑質砂状」を呈する。岩片は認められない。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない	47.40	47.51		
126	47.51	47.80 D 岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンなどの挟在物をもつ割れ目が多い。	-	-	-	47.51	47.80	47.51~47.80m:D 原岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンなどの挟在物をもつ割れ目が多い。	
127	47.80	48.80 CL 20~30°割れ目沿いに著しく軟化した硬さ「E」も徐々に分布する。白色粘土細脈やマンガン鉱染を伴う。	-	-	-	47.80	48.80	47.80~48.80m:CL 20~30°割れ目沿いに著しく軟化した硬さ「E」も所々に分布する。白色粘土細脈やマンガン鉱染を伴う。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度			
128	48.80	49.17	D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに62°のせん断割れ目(sj)が分布。挟在物のない平滑な割れ目。 <input checked="" type="checkbox"/>	48.80	49.17	D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに62°のせん断割れ目(sj)が分布。挟在物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。 <input checked="" type="checkbox"/>	48.80	49.17	48.80~49.17m:D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに62°の割れ目が分布。挟在物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。	
129	49.17	49.27	破砕帯(主せん断面49.20m)	49.17	49.22	破砕帯(最新活動面49.17m) 最も直線的な面			●49.17~49.22m:破砕部 49.17~49.20m:粘土質塊状部(Hb) 上端25°で波打って、下端30~38°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土脈を挟む。径2~3mm石英粒。径5mm粘土化岩片を計20~30%含む。灰白色~明黄褐色を呈する。幅10~25mm。 ●49.20~49.22m:粘土状部(Hc-2) 上端30~38°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い線状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。	・硬軟・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
130	49.17	49.20	Hb 上端25°で波打って、下端30~38°で湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒。φ5m/m粘土化岩片を計20~30%含む軟質な「塊状粘土状」層する。色調は灰白(2.5Y8/2)~明黄褐色(10YR7/6)。厚さ10~25mm。	49.17	49.20	Hb 上端25°で波打って、下端30~38°で湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒。φ5m/m粘土化岩片を計20~30%含む軟質な「粘土質塊状」を呈する。上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土脈を挟む。色調は灰白(2.5Y8/2)~明黄褐色(10YR7/6)。厚さ10~25mm。細粒部は網目状に分存。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	49.17	49.22		
131	49.20	49.22	Hc-2 上端30~38°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。φ1~2m/m石英粒を5~10%含む軟質粘土(ガウシ)。色調は明黄褐色(10YR7/6)。厚さ7~15mm	49.20	49.22	Hc-2 上端30~38°、下端35~60°でいずれも湾曲して連続。φ1~2m/m石英粒を5~10%含む軟質粘土からなる(ガウシ)。色調は明黄褐色(10YR7/6)。厚さ7~15mm 弱い線状構造がみられる。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。				
132	49.22	49.27	Hj 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒。φ5~10m/m岩片(硬さ「D」)と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として「粘土-砂混じり岩片状」呈する。色調はこぶい黄橙(10YR6/4)。厚さ50mm(コア長)	49.22	49.27	Hj 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒。φ5~10m/m岩片(硬さ「D」)と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として「粘土-砂混じり岩片状」呈する。色調はこぶい黄橙(10YR6/4)。厚さ50mm(コア長) 上位の破砕帯に比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も硬く、原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土脈に系統性が乏しい。下位の健岩部との境界は漸移的である	49.22	49.27	49.21~49.27m:上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。上位の破砕帯に比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も硬く、原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土脈に系統性が乏しい。下位の健岩部との境界は漸移的である。こぶい黄橙色を呈する。	
133	49.27	49.40	D 20~30°割れ目が多く残留するが割れ目ぞいに風化-砂状化が進む	-	-	-	49.27	49.40	49.27~49.40m:D 20~30°割れ目が多く残留するが割れ目ぞいに風化-砂状化が進む。	
134	49.40	51.94	CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60°前後の割れ目が分布 51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混える。	-	-	-	49.40	51.94	49.40~51.94m:CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60°前後の割れ目が分布。 51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混える。	
135	-	-	-	49.45	49.45	傾斜65° 幅15mmのA脈を挟む	49.45	49.45	49.45m:傾斜65°で幅15mmのアブライト脈を挟む。	
136	51.06	51.94	割れ目や密着度が低いゆき割れ目が多い、ゆき割れ目も褐色化している。	51.06	51.94	割れ目や密着度が低いゆき割れ目が多い、潜在割れ目も褐色化している。	51.06	51.94	51.06~51.94m: 割れ目や密着度が低い潜在割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。	
137	-	-	-	50.12	50.15	傾斜50° 程度、幅1~2cmで岩片化した赤褐色部を伴う	50.12	50.15	50.12~50.15m:傾斜50°程度、幅1~2cmで岩片化した赤褐色部を伴う。	
138	51.24	51.62	割れ目挟雑物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目ぞいに1m/m砂状化するものが多い。処々に幅0.5~1m/mで密着した石英脈が分布。	51.24	51.62	割れ目挟在物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目ぞいに1m/m砂状化するものが多い。処々に幅0.5~1m/mで密着した石英脈が分布。	51.24	51.62	51.24~51.62m: 割れ目挟在物は殆んど分布しない。 これ以外では割れ目ぞいに1m/m砂状化するものが多い。 所々に幅0.5~1m/mで密着した石英脈が分布。	
139	51.63	51.83	15°割れ目ぞい厚さ10m/mが砂状化	-	-	-	51.63	51.83	51.63m:15°割れ目ぞい厚さ10mmが砂状化。	
140	51.94	52.72	D 著しく軟化するが岩組織と割れ目は残留している。	-	-	-	51.94	52.72	51.94~52.72m:D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目は残留している。	
141	52.16	52.16	23°厚さ30m/m軟質褐色粘土脈。上端にマンガン伴う。	52.16	52.16	23°厚さ3m/m軟質褐色粘土脈。上端にマンガン伴う。	52.16	52.16	52.15m:23°厚さ3mmの軟質褐色粘土脈。上端にマンガン伴う。	
142	52.32	52.50	硬さ「D」が主体。	-	-	-	52.32	52.50	52.32~52.50m:硬さ「D」が主体。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
		コア観察カードから正しく転記されているか?			追加変更した情報が正しく転記されているか?			適正化すべき記事内容	
		<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>				
143	52.72	52.81	破砕帯(主せん断面52.81m)	52.72	52.81	破砕帯(最新活動面52.81m) 下端の直線的な面		●52.72～52.81m:破砕部 52.72～52.80m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端56'で直線的に、下端14'で波打って連続、径5～10mm岩片(硬さ「D」主体)と岩片間の幅1～2mm脈状～φ2～5mm斑点状粘土部からなる。弱褐色を呈する。幅40～60mm。 52.80～52.81m:糖湿り粘土状部(Hc-2) 上端14'で波打って、下端14'で直線的に連続、軟質で、径1～2mm石英粒、径2～3mm粘土化岩片を10～20%含む。幅7～10mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
144	52.72	52.80	Hj 上端56'で直線的に、下端14'で波打って連続、φ5～10m/m岩片(硬さ「D」主体)と岩片間の幅1～2mm脈状～φ2～5mm斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40～60mm/m	52.72	52.80	Hj 上端53'で直線的に、下端14'で波打って連続、φ5～10m/m岩片(硬さ「D」主体)と岩片間の幅1～2mm脈状～φ2～5mm斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40～60mm/m。軟質、細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	52.72	52.81	
145	52.80	52.81	Hc-2 上端は波打って、下端は直線的に連続、φ1～2mm/m石英粒、φ2～3mm/m粘土化岩片を10～20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7～10mm/m	52.80	52.81	Hc-2 14'で上端は波打って、下端は直線的に連続、φ1～2mm/m石英粒、φ2～3mm/m粘土化岩片を10～20%含む軟質糖湿り粘土からなる(砂ウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7～10mm/m			
146	52.80	53.17	D	52.81	53.17	D 変質し、軟質化している。30～50'程度の割れ目がみられる。	52.81	53.17	52.81～53.17m:D 変質し、軟質化している。30～50'程度の割れ目がみられる。
147	53.17	53.22	破砕帯(主せん断面53.17m)	53.17	53.22	破砕帯(最新活動面53.17m)		●53.17～53.22m:破砕部 53.17m:糖湿り粘土状部(Hc-2) 上端29'で直線的に連続、軟質で、径1～2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17～53.22m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端29'、下端27'でいずれも直線的に連続、径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり全体的に「粘土混じり岩片状」～「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染部を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40mm/m。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
148	53.17	53.17	Hc-2 29'で上下端とも直線的に連続、φ1～2mm/m石英粒を10%程度含む軟弱な糖湿り粘土からなる(砂ウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	53.17	53.17	Hc-2 29'で上下端とも直線的に連続、φ1～2mm/m石英粒を10%程度含む軟弱な糖湿り粘土からなる(砂ウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	53.17	53.22	
149	53.17	53.22	Hj 上端29'、下端17'でいずれも直線的に連続、φ5m/m前後の粘土化岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり全体的に「粘土混じり岩片状」～「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染部を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40mm/m	53.17	53.22	Hj 上端29'、下端27'でいずれも直線的に連続、φ5m/m前後の粘土化岩片と岩片間の粘土～砂状部からなり全体的に「粘土混じり岩片状」～「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染部を伴ない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40mm/m。 軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。			
150	53.22	53.45	CL 20～30'の直線的な割れ目が多い。	-	-	-	53.22	53.45	53.22～53.45m:CL 20～30'の直線的な割れ目が多い。
151	53.22	53.45	(岩級区分)CL	53.22	53.45	(岩級区分)D	53.22	53.45	53.22～53.45m:D 20～30'の直線的な割れ目が多い。
152	53.45	53.54	D 締った砂状を呈する。岩組織と一部の割れ目は残留。	-	-	-	53.45	53.54	53.45～53.54m:D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。
153	53.54	56.66	CL	53.54	56.66	CL 30～53'程度の割れ目が主体	53.54	56.66	53.54～56.66m:CL 傾斜30～50'の割れ目が主体となる。
154	53.87	54.10	石英が多く露出しφ10～20mm斑点状～幅5～15mm/45～65'の脈状で分布する。	-	-	-	53.87	54.10	53.87～54.10m: 石英が多く露出し径10～20mm斑点状～幅5～15mm/45～65'の脈状で分布する。
155	53.87	54.00	珪質でレンズ状の石英も分布する。	-	-	-	53.87	54.00	53.87～54.00m:珪質でレンズ状の石英も分布する。
156	54.00	54.60	石英脈ないし割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間でマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。	-	-	-	54.00	54.60	54.00～54.60m: 石英脈ないし割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間でマンガン鉱染も伴ない黒褐色を帯びる。
157	-	-	-	54.82	54.82	傾斜53' 幅2mm以下、黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。	54.82	54.82	54.82m:傾斜53'で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺に一部緑色化する。
158	-	-	-	55.00	55.00	傾斜53' 幅2mm程度のマンガンを挟む。	55.00	55.00	55.00m:傾斜53'で幅2mmのマンガンを挟む。
159	55.25	55.25	55'のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25m～56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどは含まない。	55.25	55.25	55'のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25m～56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどは含まない。	55.25	55.25	55.25m:55'のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25～56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどは含まない。
160	56.43	56.47	35'～40'割れ目ぞいに軟化し、硬さ「D」を呈する。	-	-	-	56.43	56.47	56.41～56.47m:35～40'割れ目ぞいに軟化し、硬さ「D」を呈する。
161	56.66	56.84	D 風化で締った砂状化する。φ10～20mm/mの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。	-	-	-	56.66	56.84	56.66～56.84m:D 風化で締った砂状化する。径10～20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。
162	56.66	56.84	(岩級区分)D	56.66	56.84	(岩級区分)CL	56.66	56.84	(岩級区分)CLに含める

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字まで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字まで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字まで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 適正化した記事内容	
163	56.84	58.77	-	-	-	56.84	58.77	56.84~58.77m:CL	-
164	56.84	57.90	-	-	-	56.84	57.90	56.84~57.90m:硬さD:岩片主体で、一部に硬さEが残留する。57.90m以浅では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。	-
165	57.75	57.90	-	-	-	57.75	57.90	57.75~57.90m:コアチューブ引上時に線状コア化したものと推定される。	-
166	57.90	58.34	57.90	58.34	硬さD:岩片主体 2ヶ所に幅1~2m/m石英脈が密着して分布 各割れ目沿いに軽微なマンガン鉱染を受ける	57.90	58.34	硬さD:岩片主体 2ヶ所(57.96m、45°、58.05m、50°)に幅1~2m/m石英脈が密着して分布 各割れ目沿いに軽微なマンガン鉱染を受ける。	-
167	58.28	58.28	-	-	-	58.28	58.28	58.28m:割れ目交差部周辺で砂状化。	-
168	58.34	58.77	-	-	-	58.34	58.77	58.34~58.77m:硬さD:岩片主体。 一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。	-
169	58.77	59.82	58.77	59.82	D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。 岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。	58.77	59.82	D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。 岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。	-
170	59.18	59.18	-	-	-	59.18	59.18	59.18m:20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土を挟む。	-
171	59.28	59.48	59.28	59.48	割れ目は消滅する。(コアが乱れている)	59.28	59.48	59.28~59.48m:コアの擾乱により割れ目が消滅している。	-
172	29.60	29.65	59.60	59.65	3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布、砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1m/m)を挟む	59.60	59.65	59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布、砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm)を挟む。	-
173	59.82	59.85	59.82	59.85	破砕帯(主せん断面59.85m)D-1	59.82	59.85	●59.82~59.85m:破砕部 59.82~59.85m:粘土混じり岩片状部(4) 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。幅30mm。 59.85m:粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°いずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、織り構造がみられる。幅5~7mm。	-
174	59.82	59.85	59.82	59.85	H 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。 径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)、厚さ30mm	59.82	59.85	H 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。 径2~5mm石英粒、径5~10mm粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい褐色(7.5YR6/3)、厚さ30mm やや軟質。細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	-
175	59.85	59.85	59.85	59.85	Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。径1~2m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱な粘土(粘土ウジ)、色調は灰褐色(7.5YR6/2)~灰白色(7.5YR8/1)で織り構造を呈する。厚さ5~7m/m	59.85	59.85	Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。径1~2m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱な粘土(粘土ウジ)、色調は灰褐色(7.5YR6/2)~灰白色(7.5YR8/1)で織り構造を呈する。厚さ5~7m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	-
176	59.85	60.99	59.85	60.99	CL 60.54m以浅は割れ目沿いに風化が進み、硬さEも含んでいる。 60.54m以深は硬質となり硬さCが主体である。 前者では、割れ目沿いにマンガン鉱染を伴う。	59.85	60.99	59.85~60.99m:CL 60.54m以浅は割れ目沿いに風化が進み、硬さEも含んでいる。 60.54m以深は硬質となり硬さCが主体である。 前者では、割れ目沿いにマンガン鉱染を伴う。 60.32~60.46m間は黄色味を帯びる。	-
177	60.99	61.38	-	-	-	60.99	61.38	60.99~61.38m:CH 堅硬。割れ目に夾入物は含まない。	-
178	60.99	61.38	60.99	61.38	(岩級区分欄)CH	60.99	61.38	(岩級区分欄)CMIに含める	-
179	61.38	63.61	-	-	-	61.38	63.61	61.38~63.61m:CM 上端部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目沿いに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に夾入物はほとんど分布しない。	-
180	62.53	62.57	-	-	-	62.53	62.57	62.53~62.57m: 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。	-
181	62.82	63.61	-	-	-	62.82	63.61	62.82~63.61m:岩片は硬いが(硬さE)、割れ目沿いに幅2~10mm程度砂状~細かく片状化する。粘土化部や粘土脈は挟まない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	適正化した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
182	63.61	64.00	-	-	-	63.61	64.00	63.61~64.00m:D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10~60mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。	-
183	63.90	63.94	-	-	-	63.90	63.94	63.90~63.94m:60° 幅1~3mm石英脈が2条分布。	-
184	64.00	64.33	-	-	-	64.00	64.33	64.00~64.33m:CL 50~60°と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10mm程度に細かく岩片化する部分もある。	-
185	64.00	64.33	64.00	64.33	(岩級区分欄)D	64.00	64.33	(岩級区分欄)Dに含める	-
186	64.33	66.07	-	-	-	64.33	66.07	64.33~66.07m:CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-
187	65.22	65.30	-	-	-	65.22	65.30	65.22~65.30m: 40°と70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。またわずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも併っている。	-
188	65.90	65.90	-	-	-	65.90	65.90	65.90m:径20mmと大型な石英斑晶が晶出。	-
189	66.07	66.62	-	-	-	66.07	66.62	66.07~66.62m:CL 風化したゆるぎ割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。	-
190	66.62	67.14	-	-	-	66.62	67.14	66.62~67.14m:D φ5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。66.65m以下では岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。	-
191	-	-	66.97	66.97	傾斜55° 幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む	66.97	66.97	66.97m:傾斜55°で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。	-
192	67.14	67.27	-	-	-	67.14	67.27	67.14~67.27m:CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む。	-
193	67.14	67.27	67.14	67.27	(岩級区分欄)D	67.14	67.27	(岩級区分欄)Dに含める	-
194	67.27	67.80	-	-	-	67.27	67.80	67.27~67.80m:CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。67.40~67.47m間にφ5~10mmに砕け角礫状化する。	-
195	67.80	67.93	-	-	-	67.80	67.93	67.80~67.93m:D 50~60° 割れ目ぞいに砂状化し、φ10mm硬質岩片を含む砂礫状呈する。	-
196	67.80	67.93	67.80	67.93	(岩級区分欄)CL	67.80	67.93	(岩級区分欄)CLに含める	-
197	67.93	68.15	-	-	-	67.93	68.15	67.93~68.15m:CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状化部を挟む。	-
198	68.15	68.60	-	-	-	68.15	68.60	68.15~68.60m:CM 割れ目に挟入物は分布しない。	-
199	68.15	68.60	68.15	68.60	(岩級区分欄)CL	68.15	68.60	(岩級区分欄)CLに含める	-
200	68.43	68.49	68.43	68.49	コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土ははさまない。	68.43	68.49	68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の擾乱で、径5~20mm礫状~片状に砕けているが砂や粘土ははさまない。	-
201	68.60	69.05	68.60	69.05	D 軟化著しい硬さ「E」であるが、岩組織や割れ目は明確に残留している。 上層の68.60~68.65mは砂状化を呈するが、これはコア引上げ時で生じた可能性が高い。 68.79~68.96m間は硬さCの硬質部を含む。 68.96~69.06mは風化著しく明黄褐色を呈する。	68.60	69.05	68.60~69.05m:D 軟化著しい硬さ「E」であるが、原岩組織や割れ目は明確に残留している。 68.60~68.65m:コアチューブ引き上げ部の擾乱で砂状化している。 68.79~68.96m間は硬さCの硬質部を含む。 68.96~69.06m:風化が著しく明黄褐色を呈する。	-
202	68.60	69.05	68.60	69.05	(岩級区分欄)CL	68.60	69.05	(岩級区分欄)CLに含める	-
203	-	-	68.79	68.96	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク	68.79	68.96	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)δランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
204	69.05	69.56	69.05	69.56	69.05	69.56	69.05	69.56	69.05~69.56m:CL 30~50° 割れ目主体。密着度の低いゆる割れ目も多く含む。 割れ目沿いに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。
205	69.07	69.07	69.07	69.10	69.07	69.10	69.07	69.10	厚さ2~3mm/mマンガンが脈状に分布 幅3cm程度でマンガンが濃集する
206	69.56	69.70	-	-	-	-	69.56	69.70	D 少量の白色粘土細脈を伴う。
207	69.56	69.70	69.56	69.70	69.56	69.70	69.56	69.70	(岩級区分欄)D (岩級区分欄)CLに含める
208	69.70	69.73	69.70	69.73	69.70	69.73	69.70	69.73	破砕帯(主せん断面69.70m) 線形的な細粒部
209	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.70	69.73	Hc-1 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土(カウジ)、色調はにぶい黄橙(10YR5/3)、厚さ1m/m。 Hj 55°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟弱粘土からなる(カウジ)、色調はにぶい黄橙(10YR5/3)、厚さ1m/m。 幅が広い。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無は不明。
210	69.70	69.73	69.70	69.73	69.70	69.73	69.70	69.73	Hj 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm硬さE(粘土化)、Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。やや硬質全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7Y7/2)、厚さ1m/m Hj 上端55°で、下端57°でいずれも直線的に連続。φ3~10mm硬さE(粘土化)、Dの岩片で岩片間の一部は粘土化する。やや硬質全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.7Y7/2)、厚さ2.3m/m 細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる
211	69.73	74.10	-	-	-	-	69.73	74.10	CL 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目に砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物は殆んど分布しない。
212	70.06	70.09	-	-	-	-	70.06	70.09	45° 割れ目沿いに風化で砂状化する。 70.43~71.27mの硬さ「C」のうち、70.49~70.59mではφ5m/mの白濁化した長石が多い。70.59m以浅では少ない。
213	71.27	71.60	-	-	-	-	71.27	71.60	45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。
214	71.37	71.50	-	-	-	-	71.37	71.50	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。岩片も硬さ「C」と周囲より硬質化している。
215	-	-	71.37	71.50	71.37	71.50	71.37	71.50	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)Aランク
216	71.88	71.88	-	-	-	-	71.88	71.88	0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。
217	72.10	72.74	-	-	-	-	72.10	72.74	硬さ「C」区間では割れ目挟在物は殆んど分布しない。長石の一部は白濁化する。
218	72.74	74.10	-	-	-	-	72.74	74.10	72.74~74.10m: 硬さ「D」主体だが、硬さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目沿いに風化、砂状化することがある。
219	73.35	73.38	73.35	73.38	73.35	73.38	73.35	73.38	厚さ25~40m/mで締った砂状化を呈する。変質している。岩組織は残留している。
220	73.65	73.76	-	-	-	-	73.65	73.76	30°と60°の割れ目が交差しφ10~50m/mの岩片状コアを呈する。
221	74.10	74.36	-	-	-	-	74.10	74.36	CM
222	74.10	74.36	74.10	74.36	74.10	74.36	74.10	74.36	(岩級区分欄)CM (岩級区分欄)CLに含める

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			
223	74.36	74.50	破砕帯(主せん断面74.40m)	74.36	74.50	破砕帯(最新活動面74.40m) 連続する細粒部			
224	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟弱な「礫質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ0~30m/m	74.36	74.40	Hb 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5m/m岩片を約10%含む軟弱な「礫質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ0~30m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。含まれる細粒部は網目状に分布。			●74.36~74.50m:破砕部 74.36~74.40m:礫質砂状部(Hb) 上端27°で直線的に、下端30°で不明瞭に湾曲して連続。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5mm岩片を約10%含む、にぶい黄褐色を呈する。幅0~30mm。 74.40~74.41m:粘土状部(Hc-1) 上端30°、下端30°でいずれも湾曲して連続。軟質で、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む、灰褐色を呈する。幅7mm。 74.41~74.50m:礫質砂状部(Hb) 上端30°で湾曲して連続。下端はコアチューブ引き上げによる擾乱部で不明。軟質で、径2~3mm石英粒、粘土化した径5~30mm岩片を10~20%含む、にぶい黄褐色を呈する。幅75mm以上。
225	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ウツジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7m/m	74.40	74.41	Hc-1 30°で上下端とも湾曲して連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土からなるウツジ。色調は灰褐色(7.5YR5/2)厚さ7m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	74.36	74.50	
226	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にウツジコアのため位置不明。 φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5~30m/m岩片を10~20%含む軟弱な「礫質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上	74.41	74.50	Hb 上端30°で湾曲して連続。下端は74.50m以深が掘削時にウツジコアのため位置不明。 φ2~3m/m石英粒、粘土化したφ5~30m/m岩片を10~20%含む軟弱な「礫質粘土状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ75m/m以上 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭			
227	74.50	75.57	D	-	-	-	74.50	75.57	74.50~75.57m:D
228	74.50	75.00	礫状コアで採取され、割れ目状況など不明	74.50	75.00	コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。	74.50	75.00	74.50~75.00m:コアチューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状況など不明。
229	75.00	75.57	岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。	-	-	-	75.00	75.57	75.00~75.57m: 原岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。
230	75.57	76.00	破砕帯(主せん断面75.73m)	75.57	76.00	破砕帯(最新活動面75.73m) 露も直線的な細粒部の下端			
231	75.57	75.71	Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。φ5~20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90~120m/m	75.57	75.71	Hj 上端は不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。φ5~20m/m岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰黄褐色(10YR6/2)、厚さ90~120m/m 軟質。含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。			●75.57~76.00m:破砕部 75.57~75.71m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端不明瞭ながら25°で、下端68°で波打って連続。径5~20mm岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する。灰黄褐色を呈する。幅90~120mm。 75.71~75.73m:雑混じり粘土状部(Hc-2) 上端68°で波打って、下端68°で直線的に連続。軟質で、径1~3mm石英粒と径3mm岩片を5~10%含む、灰褐色を呈する。幅10~12mm。 75.73~75.93m:礫質粘土状部(Hb) 上端68°で直線的に、下端64°で波打って連続。硬質で、径2~4mm石英粒、径5~10mm岩片を10~15%含む。石英粒は直線的なせん断面方向に配列している。明褐色~灰褐色を呈する。幅55mm。 75.93~76.00m:粘土混じり~粘土質岩片状部(Hj) 上端64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土からなる。明褐色を呈する。幅60mm以上。
232	75.71	75.73	Hc-2 68°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~3m/m石英粒とφ3m/m岩片を5~10%含む軟質粘土(ウツジ)。色調は灰褐色(5YR5/2)、厚さ10~12m/m	75.71	75.73	Hc-2 68°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~3m/m石英粒とφ3m/m岩片を5~10%含む軟質粘土(ウツジ)からなるウツジ。色調は灰褐色(5YR5/2)、厚さ10~12m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	75.57	76.00	
233	75.73	75.93	Hb 上端68°で直線的に、下端64°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒、φ5~10m/m岩片を10~15%含む半固結状の「礫質粘土状」を呈する。石英粒は主せん断面方向に配列している。 色調は明褐色(5YR7/2)~灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m	75.73	75.93	Hb 上端68°で直線的に、下端64°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒、φ5~10m/m岩片を10~15%含む半固結状の硬質な「礫質粘土状」を呈する。石英粒は直線的なせん断面方向に配列している。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。 色調は明褐色(5YR7/2)~灰褐色(5YR5/2)、厚さ55m/m			
234	75.93	76.00	Hj 上端は64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。 φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり~粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上。	75.93	76.00	Hj 上端は64°で波打って、下端は不明瞭(30°?)に連続。 φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり~粘土質岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ60m/m以上。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。			
235	76.00	76.91	D 硬さ[C]のφ5~20m/m岩片と綿った砂状からなり、全体的には綿った砂礫状を呈する。	-	-	-	76.00	76.91	76.00~76.91m:D 硬さ[C]の径5~20mm岩片と綿った砂状からなり、全体的には綿った砂礫状を呈する。
236	76.54	76.70	硬さ[C]の岩片部	-	-	-	76.54	76.70	76.54~76.70m:硬さ[C]の岩片部。
237	-	-	-	76.54	76.70	(コアの硬さ欄)○ランク (コアの形状欄)▽ランク (割れ目状態欄)△ランク (風化欄)▲ランク (変質欄)◇ランク	76.54	76.70	(コアの硬さ欄)○ランク (コアの形状欄)▽ランク (割れ目状態欄)△ランク (風化欄)▲ランク (変質欄)◇ランク

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	
-	-	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	76.70	76.91	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	76.70	76.91	適正化の記事内容	-
238	-	-	76.70	76.91	(割れ目状感欄)Bランク	76.70	76.91	(割れ目状感欄)Cランク	-
239	76.70	76.91	-	-	-	76.70	76.91	76.70~76.91m: 岩片はわずかになり、代って幅1~2mm軟質白色粘土脈が多くなる。	-
240	76.91	77.19	-	-	-	76.91	77.19	76.91~77.19m:CL 割れ目沿いに砂状化するものもある。	-
241	76.91	77.19	76.91	77.19	(岩級区分欄)D	76.91	77.19	(岩級区分欄)Dに含める	-
242	-	-	77.10	77.10	傾斜75° 幅1mmの石英脈を伴う	77.10	77.10	77.10m:傾斜75° 幅1mmの石英脈を挟む。	-
243	77.19	78.00	-	-	-	77.19	78.00	77.19~78.00m:D 著しく軟化するが、岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.81~77.80m:ロッド引上げ時にコアが乱れ、礫状を呈している。	-
244	78.00	78.43	-	-	-	78.00	78.43	78.00~78.43m:CL 60~80° 割れ目主体、これに斜~直交する30° も混入する。 割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂をはさむ	-
245	78.00	78.43	78.00	78.43	(岩級区分欄)D	78.00	78.43	(岩級区分欄)Dに含める	-
246	78.43	78.72	-	-	-	78.43	78.72	78.43~78.72m:D 風化・砂状化が拡大し、締った砂礫状を呈する。	-
247	78.60	78.60	-	-	-	78.60	78.60	78.60m周辺はマンガン鉱染を受ける。	-
248	78.72	78.87	78.72	78.87	破砕帯(主せん断面78.87m) 最新活動面は78.82mが78.87mの可能性はある	78.72	78.87	●76.72~78.87m:破砕部 76.72~78.87m:粘土混じり岩片状部(H) 上端は31°、幅5mm褐色粘土脈で波打って、下端は60°で直線的に連続。 径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質白色粘土が脈状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ130~140m/m	-
249	78.72	78.87	78.72	78.87	H 上端は31°、幅5m/m褐色粘土脈で波打って、下端は60°で直線的に連続。φ5m/m程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質白色粘土が脈状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ130~140m/m	78.72	78.87	H 上端は31°、幅5m/m褐色粘土脈で波打って、下端は60°で直線的に連続。φ5m/m程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの軟質白色粘土が脈状に分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ130~140m/m やや硬質、含まれる細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	-
250	78.87	78.87	78.87	78.87	Hc-1 60°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)、色調は灰褐色(7.5YR4/2)、厚さ1~2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	78.87	78.87	Hc-1 60°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をわずかに(5%以下)含む軟弱粘土からなる(母砂)、色調は灰褐色(7.5YR4/2)、厚さ1~2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	-
251	78.87	82.51	-	-	-	78.87	82.51	78.87~82.51m:CL	-
252	78.87	79.27	78.87	79.27	硬さ「D」主体、長石の白濁化が多い。 傾斜85~90°の割れ目が分布する。	78.87	79.27	78.87~79.27m:硬さ「D」主体、長石の白濁化が多い。傾斜85~90°の割れ目が分布する。	-
253	79.02	79.02	-	-	-	79.02	79.02	79.02m:55° 厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片含む。	-
254	79.27	80.66	-	-	-	79.27	80.66	79.27~80.66m:硬さ「C」主体。 上端側の79.27~79.59mは硬さ「B」と硬硬。	-
255	-	-	79.27	79.59	(コアの硬さ欄)Bランク	79.27	79.59	(コアの硬さ欄)Bランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
256	-	-	79.54	79.54	傾斜50° 幅0.5~1mmの灰白色粘土挟む。	79.54	79.54	79.54m; 傾斜50° で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。	-
257	79.69	79.95	-	-	-	79.69	79.95	79.69~79.95m; 褐色化するが珪七のため硬さ「C」と硬質。	-
258	79.96	80.23	-	-	-	79.96	80.23	79.96~80.23m; 45° 前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガン層を厚さ0.5~3mm/ mではさんでいる。	-
259	80.30	80.40	-	-	-	80.30	80.40	80.30~80.40m; 割れ目沿いに砂状化が進む。	-
260	80.30	80.35	-	-	-	80.30	80.35	80.30~80.35m; コアチューブ引き上げ時に発生した角礫状コア。	-
261	80.66	81.87	-	-	-	80.66	81.87	80.66~81.87m; 硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3cm岩片が断片的に分布80° 前後の高角度割れ目が多い。	-
262	81.17	81.17	81.17	81.17	55° 割れ目に厚さ10~15mm/m で砂と褐色粘土はさまむ。挟み物中と割れ目周辺にφ0.5mm / m以下の微細な白雲母片。	81.17	81.17	81.17m; 55° 割れ目に厚さ10~15mm/m で砂と褐色粘土を挟む。挟み物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白雲母片。周辺は幅1cm程度緑色化している。	-
263	81.82	81.87	81.82	81.87	コア引き上げ部で締った砂礫状層する。	81.82	81.87	81.82~81.87m; コアチューブ引き上げ部で締った砂礫状層する。	-
264	81.87	82.51	81.87	82.51	割れ目沿いに砂状化する部分も含まれる。10~30° と50~70° 程度の割れ目がみられる。	81.87	82.51	81.87~82.51m; 割れ目沿いに砂状化する部分も含まれる。10~30° と50~70° 程度の割れ目がみられる。	-
265	82.51	82.62	-	-	-	82.51	82.62	82.51~82.62m; D 風化で砂状化する。φ0.5~1cmの4p岩片が塊状に分布する。	-
266	82.51	82.62	82.51	82.62	(岩粒区分欄)D	82.51	82.62	(岩粒区分欄)CLに含める	-
267	82.62	82.94	-	-	-	82.62	82.94	82.62~82.94m; CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土層はさまむ。	-
268	82.94	84.09	82.94	84.09	CM 砂着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟み物は少ない。	82.94	84.09	82.94~84.09m; CM 砂着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟み物は少ない。30~50° と70~90° の割れ目が3~10cm間隔で分布する。	-
269	83.30	83.47	-	-	-	83.30	83.47	83.30~83.47m; 長石の一部が白濁化する。	-
270	84.07	84.09	-	-	-	84.07	84.09	84.07~84.09m; 上端45°、下端65° 割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。厚さ1~10mm/mで厚さ3mm/mレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン鉱染層。	-
271	84.09	84.92	-	-	-	84.09	84.92	84.09~84.92m; GH 60~80° の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。	-
272	84.50	84.50	-	-	-	84.50	84.50	84.50m; 36° 割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガン層を伴う。	-
273	84.82	84.92	84.82	84.92	割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟み物は伴わない。コア引き上げ部	84.82	84.92	84.82~84.92m; コアチューブ引き上げ時の擾乱により、割れ目交差部で一部片状コア、岩片自身は堅硬で劣化や挟み物は伴わない。	-
274	84.92	85.38	84.92	85.38	CL 下位破砕帯のません断面と同方向の50~60° 割れ目や砂着割れ目が多い。	84.92	85.38	84.92~85.38m; CL 下位破砕帯の直線的なせん断面と同方向の50~60° 割れ目や砂着割れ目が多い。	-
275	85.01	85.01	-	-	-	85.01	85.01	85.01m; 幅1mm以下 22° 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。	-
276	85.38	85.41	85.38	85.41	(岩粒区分欄)D	85.38	85.41	(岩粒区分欄)CLに含める	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化すべき記事内容
277	85.38	85.41	破砕帯(主せん断面85.41m)	85.38	85.41	破砕帯(最新活動面85.41m) 直線的な細粒部			●85.38～85.41m:破砕部 85.38～85.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45～50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端47°で直線的に連続する。幅20～25mm。上端の割れ目沿いにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 85.41m:粘土状部(Hc-1) 上端47°、下端47°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこぐわずか(5%以下)含む。灰黄色を呈する。幅2mm。
278	85.38	85.41	H 上端45～50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47°で直線的に連続。φ2～3m/m石英粒とφ3～5m/m粘土化岩片と基質の砂状～粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ20～25m/m上端の割れ目ぞいにマンガン鉱染受け黒褐色化する。	85.38	85.41	H 上端45～50°で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下端は47°で直線的に連続。φ2～3m/m石英粒とφ3～5m/m粘土化岩片と基質の砂状～粘土状部からなる軟質な「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。 色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ20～25m/m上端の割れ目ぞいにマンガン鉱染受け黒褐色化する。 含まれる細粒部は割れ目に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	85.38	85.41	
279	85.41	85.41	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をこぐわずか(5%以下)含む軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m	85.41	85.41	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続。φ1m/m石英粒をこぐわずか(5%以下)含む軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR5/2)厚さ2m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない			
280	85.41	85.92	CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40～60°割れ目主体、砂や粘土をほさむ。	85.41	85.92	CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40～60°割れ目主体、砂や粘土をほさむ。 所々割れ目沿いに幅1～2cm程度緑色化を呈する。	85.41	85.92	85.4～85.92m:CL 上位の破砕帯の主せん断面と同方向の40～60°割れ目主体、砂や粘土をほさむ。所々、割れ目沿いに幅1～2cm程度緑色化を呈する。
281	85.92	86.43	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ10～30m/m硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。	-	-	-	85.92	86.43	85.92～86.43m:D 割れ目沿いに砂状化が拡大。径10～30mm硬さ「C」岩片を多量に混えた砂礫状を呈する。
282	86.43	86.86	CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-	86.43	86.86	86.43～86.86m:CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物はほとんど分布しない。
283	86.43	86.86	(岩粒区分欄)CM	86.43	86.86	(岩粒区分欄)CL	86.43	86.86	(岩粒区分欄)CLに含める
284	86.86	87.20	CL 50～60°割れ目ぞいを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。	-	-	-	86.86	87.20	86.86～87.20m:CL 50～60°割れ目ぞいを主体に軟化が進む。断片的に硬さ「C」岩片も礫状に残留している。
285	87.20	87.51	D 風化で締った塊状砂状を呈する。幅1～3m/mの橙色粘土も礫状に分布する。	-	-	-	87.20	87.51	87.20～87.51m:D 風化で締った塊状砂状を呈する。幅1～3m/mの橙色粘土も礫状に分布する。
286	87.20	87.51	(岩粒区分欄)D	87.20	87.51	(岩粒区分欄)CL	87.20	87.51	(岩粒区分欄)CLに含める
287	87.51	93.53	CL 割れ目ぞいに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。	-	-	-	87.51	93.53	87.51～93.53m:CL 割れ目沿いに風化が進んでいる。全体に硬さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化起源の締った砂、粘土脈、マンガンをはさむことが多い。
288	-	-	-	87.51	87.81	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)βランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	87.51	87.81	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)βランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク
289	-	-	-	87.81	87.90	傾斜60°程度で細片化著しい。マンガンを伴う。	87.81	87.90	87.81～87.90m:傾斜60°程度で細片化著しい。マンガンを伴う。
290	-	-	-	87.81	87.90	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)βランク	87.81	87.90	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)βランク
291	-	-	-	87.90	88.51	硬さC主体。傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。	87.90	88.51	87.90～88.51m:硬さC主体。傾斜20°と50°の割れ目が交差し細片化している。
292	-	-	-	87.90	88.30	(コアの硬さ欄)Cランク	87.90	88.30	(コアの硬さ欄)Cランク
293	-	-	-	88.06	88.06	傾斜52°幅2mmの赤褐色粘土。周辺は幅5mm程度で緑色化している。	88.06	88.06	88.06m:傾斜52°幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅5mm程度で緑色化している。
294	-	-	-	88.30	88.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	88.30	88.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク
295	88.51	88.69	40～50°の割れ目は1～2cm間隔で平行に分布。それと60°斜交～直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。	88.51	88.10	40～50°の割れ目は1～2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。それと60°斜交～直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。	88.51	88.10	88.51～88.10m:40～50°の割れ目は1～2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。それと60°斜交～直交する割れ目や幅1m/m石英脈も分布。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	適正化された記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
296	89.25	89.56			-			89.25~89.56m:上下に比べやや割れ目が少なくなる。	
297	-	-		89.25	89.56	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク		(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
298	89.56	89.86			-			89.56~89.86m:割れ目沿いに風化が進み全体脆くなる。(硬さD)	
299	-	-		89.86	90.28	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク		(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
300	-	-		90.43	90.67	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク		(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
301	-	-		90.70	91.00	傾斜80°の割れ目が発達		90.7~91.00m:傾斜80°の割れ目が発達する。	
302	91.16	91.25		91.16	91.25	低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10m/m前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。		91.1~91.25m: 低角度割れ目と高角度割れ目が交差し、径10mm前後の細岩片状に砕けている。 下端にマンガン鉱染伴う。	
303	-	-		91.25	91.73	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク		(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
304	-	-		91.73	91.87	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク		(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
305	92.32	92.32		92.32	92.32	53°割れ目ぞいにφ0.5m/m前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。 周辺は幅3mmで緑色化		92.32m:53°割れ目沿いに径0.5mm前後の雲母(セリサイト?)が晶出している。周辺は幅3mmで緑色化する。	
306	-	-		92.40	92.60	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク		(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
307	-	-		92.60	92.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク		(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (変質欄)2ランク	
308	-	-		92.60	93.00	傾斜35~45°の割れ目が多く、マンガンを挟むものが多い		92.6~94.07m:傾斜30~90°の割れ目にマンガンを挟むことが多い。	-マンガンの挟が多い区間をまとめて記載した。
309	93.53	94.00		93.53	93.61	D 割れ目ぞいに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。マンガン濃集する。		93.53~93.61m:D 割れ目沿いに風化による砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈する。	-マンガンについては、深度92.60~94.07mに含めて記載した
310	93.53	94.00		93.53	94.00	(岩粒区分欄)D		(岩粒区分欄)CLに含める	
311	-	-		93.53	93.61	(コアの形状欄)VIランク (割れ目状態欄)βランク (風化欄)δランク		(コアの形状欄)VIランク (割れ目状態欄)βランク (風化欄)δランク	
312	-	-		93.61	94.07	傾斜40~90°の割れ目がみられ、マンガンを挟むことが多い。			-深度92.60~94.07mに含めて記載した
313	-	-		93.61	94.00	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)δランク		(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)δランク	
314	94.00	95.85			-			94.00~95.85m:CL	
315	94.07	94.88		94.07	94.88	上下端65°で貫入するアブライト 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に80°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。φ1~2mm/mのマンガン石結晶が多く、一部で流理構造(65~80°)をもつ。 直上と直下のGpに破砕や変質は与えていない。		94.07~94.88m:上下端65°で貫入するアブライト。 上下端とも割れ目化し、破砕や変質粘土は伴わない。 貫入面(65°)に60°斜交~直交する割れ目が発達するが密着しているものが多い。一部で層状の模様(65~80°)もつ。 直上の花崗斑岩と直下のアブライトに破砕や変質は与えていない。	
316	-	-		94.88	97.00	アブライト		94.88~97.00m:アブライト	